

## 令和7年度 第3回野洲市社会教育委員会議

日付	令和8年3月17日（火）
時間	14時00分～16時00分
場所	人権センター1階 多目的室
参加者	<p>【出席】佐敷恵威子、小澤郁乃、鷲田新介、上田智子、西川典子、富田由紀子、山口孝志（委員7名）【欠席】板倉 祥浩、松本淳子（委員2名）</p> <p>北脇教育長、川崎次長、羽田文化スポーツ振興課長、大岡歴史民俗博物館長 生涯学習課：井狩課長、蜂屋参事、谷（事務局7名）</p>

概要	
	<p><b>【1. 開会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本会議は議事録作成のため録音・写真撮影を行い、公開とする。</li> </ul> <p><b>【2. 教育長あいさつ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長あいさつ</li> </ul> <p>令和7年度の生涯学習・社会教育の取組を振り返ると、学校司書を1名配置することができ、児童生徒が図書に触れ読書に親しむための機会づくりや図書室の環境整備が着実に進展した年であったと感じている。</p> <p>令和8年度野洲市社会教育関係団体活動補助金の交付について、社会教育法第13条の規定に基づき委員の皆さまから意見を伺いたい。</p> <p>情報共有では「冬の地域・学校での取り組み」ということで野洲市内の子どもたちが地域や学校でどのように過ごしているのか伺えることを楽しみにしている。</p> <p><b>【3. 議事】</b></p> <p>(1) 令和8年度野洲市社会教育関係団体活動補助金の交付について</p> <p><b>〔事務局〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和8年度社会教育関係団体補助金交付予定一覧」「令和8年度社会教育関係団体補助金交付予定一覧関連資料」に基づいて、令和8年度社会教育関係団体活動補助金交付予定について説明。</li> </ul> <p><b>〔各委員意見〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAやエルダー婦人会は会員数減少や解散しているが、補助金の金額はこのままでいいのか。繰越金の方が補助金よりも大きいので、そのあたりもちょっと気になると思った。</li> </ul> <p>→ <b>〔事務局〕</b> 市内小学校中学校合わせて9校のうち、5校がPTAを解散している。9校のときは10万円の補助をしていたが、4校に減ったところで事業内容の精査を行い5万円に減額した。活動を続けている4校について今後、精査していきたい。</p> <p>エルダー婦人会について、活動の中身は収支決算書で見ると定期的な団体の会議、活動などをされている。ご指摘の通り繰越金の方が補助金より少し多いが、会員数が少ない中でも意欲を持って活動されていると認識している。</p>

今後、活動がなされないような状況になれば、団体と話をし補助金額が必要か聞き取っていく。  
→事業報告書を提出いただく時に、例えば総会に何人出席したかなどがわかるものを示してほしい。

→【事務局】承知した。

・各学区青少年育成市民会議の決算書について、支出項目の書き方が少しずつ異なる。項目を統一して、備考に内容を書くなどしてはどうか。

→【事務局】学区ごとに取り組み内容が異なってくる。自己資金やレクリエーション時の費用などを収入として組み込んで計上している学区もある。あくまで補助金を事業の中で適正に執行されているかというところを見ている。

→項目を揃え備考にどこから拠出しているなど内容を書くように統一してほしい。

→【事務局】補助金 68,700 円の収支がわかるものになるよう、変更していく。

・野洲文化協会、野洲市音楽のあるまちづくり実行委員会は、市内の文化施設が改修等の関係で会場の都合がつかず市外で活動する場合がある。その場合も補助金は継続されるのか。

→【文化スポーツ振興課長】文化協会は市内文化施設等で活動されているが、文化ホールは休館中でさざなみホールは閉館となった。文化協会の主たる活動事業である文化芸術祭は、本年より、11月の土曜日、日曜日の2日間にわたり各関連団体の発表の場として小劇場で開催した。

小劇場は来年度以降、令和8年度、令和9年度は運営していく方向である。そのため、文化協会の活動は小劇場で開催ができると認識している。引き続き文化協会の事業展開を補助する形で8・9年度の補助金は続ける予定である。

音楽のあるまち作り実行委員会は、図書館ホールで月1回コンサート等を開催されている。継続していきたい。

#### 【4. 情報交換】「冬の地域・学校での取り組み」について

資料3に基づき、委員間で情報共有。

##### ○「粥占い」とげん kids 応援隊

公民館で「粥占い」をやっていたがコロナ以降なくなった。家を改修したところが当番になるなどあった。それがない場合は順番が回ってきて、今年うちの当番だと言いながらやっていた。そういったことを知っている人も減っている。左義長は存続している。玄関先に置いた藁を子どもたちが持って行って天神社の広い溝で組んで、習字などを燃やす。

大学でげん kids 応援隊という学生主催の応援隊がある。橘大学は地域にいる学校ということで子どもたちと学生、観修おやじの会と一緒に子ども食堂やクリスマス会など年4回行事を実施。学生は子どもたちと関わる勉強させてもらい、子どもたちは大学生と色々な遊びをしている。学生なりに一生懸命遊びのブースを作ったり、ビンゴ大会をしたり、毎回工夫を凝らしている。そのことが将来力にもなってくる。

##### ○地域コミュニティの大切さ

地域の読み聞かせは社協を通してご依頼いただいている。その中で高齢者サロンに92歳の方がきてくださった。地域の繋がりの方に関わらせてもらうということに私自身が学びをもらっている。そ

の方は銅鐸博物館でいろんな活動をしていたことや、どうやって銅鐸博物館ができたのかという話をしてくださった。話を聞いてそれを誰かに伝えたくなった。この循環が地域コミュニティの良さであり、改めて地域コミュニティは大事なんだと感じた。場を作ってくださいる民生児童委員・地域ボランティアの方々の活動力にも、学びを受けたり気づきをもらったりしている。人が集まる場は大事だがコロナ以降、色々な場がなくなっているのが復活してほしい。

#### ○中主学区次年度の取り組み

中主学区は幼小中の連携が取りやすい学区である。12月21日に北部合同庁舎でチュッピーフェアを開催。地域の方々、先生、子どもたちと交流した。

読書活動を少しずつ進めていきたい。3年前に中学校で俳句をかなり作っており、その俳句が某お茶のパッケージに掲載され文部科学大臣賞を受けた。その後続かなかつたため、読書活動を頑張ってもらいたい。小学校では昼休みに読書をする昼読をされている。子どもたちの読書を頑張っているという肯定的評価は高いが、二極化しているところがある。読書月間を設けて進めていく予定。

#### ○社会福祉協議会の取り組みと中学生のパワー

社協では各中学校圏域単位で地域のまち作りを考える話し合いの場を定期的に設けている。

みんなまち（みんなでまち作りの略）を年4回開催しており、第2回は夏休み期間に開催した。地域の大人と中学生が語り合う素敵な化学反応が起こっている。

より顔の見える関係作りをしていくため、今年度はサッカー部・野球部のメンバーと野洲北中学校のフェンスのツタ刈りを一緒に行った。今後、全体に繋がっていくことを目指しみんなまちメンバーと模索しているところである。地域では担い手不足、世代を超えた繋がりやの薄さが、どこの地域でも課題として挙がる中で、みんなまちで話をしてくれる中学生の意見を色々な人にも聞いてもらいたい。こじんまりとしたお喋り会のようなものを小さな単位でやっていきたい。

#### ○将来の目標

CS 合同研修会で初めて知ったことがたくさんあった。合同研修会が必要だと思った。

野洲小学校コミュニティ・スクールで学校運営協議会のメンバーと地域の昔の話を聞きながら、通学路の危険地域の確認を歩いて行った。実際に歩いて回ることの大切さを感じた。

12月に図書館で開催されたイベントで早田館長から読書を増やしていく取り組みとして野洲駅の貸出BOXの設置など話を聞いた。

今年度地域の組長をしている。年度末を迎え少しほっとしている。コロナ以降状況が大きく変わり、色々なくなり「楽でいいね」となっているが、コミュニティの大切さを感じるころもある。

今後、少しでも運動会など地域のことができたらいいなと思う。「いずれは自治会長になりたい」と言っているが、地域の皆さんのためにと動いている姿を見ると、すごくいいものだなと思う。

#### ○絵本を通じた交流

絵本読み語りの会トッポンチーノ主催で「大人のためのピアノと絵本のコンサート」「小さなアートフェスティバル」を開催。

1月31日に「パパ友の会」開催。パパを対象にして子どもを連れてきてもらった「おとうさんはウルトラマンを」読んだときに涙ぐんでいる人もいた。

音楽、絵本の読み語り、演劇など様々な分野でいろいろな人を対象に実施した。今年良かったことは演劇では小学生の演者さんに出てもらい手作りの演劇ができたことである。世代交流の拠点としてホビーハウスにおける当団体の参加は、「子ども向け」「大人向け」と内容の精選は必要であるが、絵本や紙芝居の根幹にある、同じ場を共有して共に楽しむことを大切にできた時間であった。

野洲幼稚園学校運営協議会としては子どもと一緒に遊ぶ活動も多く入れていきたいと思っている。野洲幼稚園が民営化する方針のため学校運協の活動は実際できないことになる。これから学校運協が目指すところをどういう形で継承していくのか3年間で考え、足跡を残しながら繋いでいきたいと考えている。

#### ○中学生と地域の関り

篠原学区の文化祭で吹奏楽部の演奏、美術部作品展示をした。

吹奏楽部は秋から準備をしている。コミセンがしっかり打合せをしてくださり楽器の搬出についても協力いただいている。たくさんの方にきていただき、地域の方からの期待を感じる。

2年生は北野の人権推進協議会とコラボして愛東にある滋賀県立平和祈念館から講師をお招きし平和学習を実施した。20名以上の地域の方にきていただけた。春になれば地域のお祭りへの参加などがあると思う。生徒たちは喜んで参加しているので、できれば自治会長会議に行つて地域に生徒たちを呼んでいただけないか宣伝していきたい。

3/28(土) PM 野洲北中学校吹奏楽部スプリングコンサート開催。

#### 【感想等】

・コミュニティ・スクールが始まる時「子どもの主体性を育むこと」を大事にするという話があったことを思い出した。地域のことを子どもたちが自分で考える、地域の行事に参加して地域を感じる事が、改めて大事だと気づいた。

・失敗もあるという部分も含め、全てが学び。大人は子どもがなにかするときにごく心配でヒヤヒヤしながら見ているが、全てが経験であつて子どもたちには物事をやつてのける力があり成長になる。

・経験則だが、教員採用試験対策で「滋賀の子は地域の方と密接に関わりあつているので滋賀の教員になりたい」という学生が多い。きっかけを聞くと地域の人との日々のあいさつでの関りや中学の職場体験などである。各地域での取り組みの結果だと思う。

#### 【5.その他】

【歴史民俗博物館】令和8年1月X(フォロワー数133人)、Instagram(フォロワー数258人)開設。来館を促すこと、来館できない人にも知識を届けることを目的としている。学芸員が持っている情報を親近感をもってもらえる内容にして情報発信を行っている。

【事務局】第68回全国社会教育研究大会(兼近畿大会)大阪大会。令和8年10月29日と10月30日

#### 【閉会】